

皆さんこんにちは【 T 】です☆

696号【魔法の手紙】では、現福井大学医学部附属病院子ども心の診療部客員教授である杉山登志郎氏が語られた「愛着形成」の重要性について紹介しました。

子どもは「愛着形成」によって得られた安心感や信頼感を基礎として、周囲の世界へ探索行動を広げ、認知力や豊かな感情を育んでいきます。もし、外の世界に疲れ、不安や恐怖を感じたとしても、主な養育者を安心・安全の基地とし、甘えたり慰めてもらったり、勇気づけてもらいながら心のエネルギーを再充電し、また外の世界へと出かけていきます。（飛行機が燃料を補給してまた飛び立つことに似ていることから、飛行場現象と呼ぶこともある）この「愛着形成」が何らかの要因で妨げられ、適切な人間関係を作る能力の障害が生じるに至ったものが「反応性愛着障害」であり、それによって引き起こされる症状の多くは発達障害の症状が含まれるとされています。子どもの発達に大きな影響を及ぼす児童虐待は、年々増加の一途を辿っており、社会問題の一つとなっています。（参考『子ども虐待という第四の発達障害』杉山登志郎著）



今から6年前、私は虐待を受けた子どもと学習を共にする機会があり、その時期に「レジリエンス」という言葉を知りました。「レジリエンス」とは心理学用語で、精神的回復力・抵抗力・復元力などを指します。困難な状況に直面した時に、簡単にあきらめず踏ん張ることができる力のことです。ベネッセ教育情報サイトに、埼玉学園大学教授の小玉正博氏が「乳幼児期から育む、折れない心」【前編】【後編】と題し、子どもの「レジリエンス」を伸ばすポイントが書かれています。

こちらからどうぞ【前編】<https://benesse.jp/kosodate/201506/20150609-3.html>

【後編】<https://benesse.jp/kosodate/201506/20150623-3.html>

子育ては試行錯誤の連続で、何が正解かわからず悩みが尽きません。子ども達も様々な困難を抱え、大小問わずストレスを感じることも多くありますが、それを全て回避して生活することはできません。たまには、お子さんを優しく抱きしめ、「よく頑張っているね」「大丈夫だよ」「大好きだよ」と、心から言ってみませんか。かく言う私も、子ども達がエネルギーを充電し、困難やストレスに対して立ち向かったり、対応したりすることができる、しなやかな心が育まれる飛行場になりたいと心から願う今日この頃です。【 T 】

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/
kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★